

## 第 16 回遠州広域行政推進会議 議事録

- 1 日 時 平成 31 年 1 月 25 日(金) 15:30~17:00
- 2 場 所 牧之原市役所榛原庁舎 4 階 会議室
- 3 出席者 浜松市長(座長)、磐田市副市長、掛川市長、湖西市長、  
御前崎市長、菊川市長、牧之原市長、森町長
- 4 概 要 以下のとおり。

### 議題

#### (1) 移住定住の促進に向けた連携について

資料 1 に基づき、静岡大学人文社会科学部上藤教授からご講演いただき、その後、意見交換を実施。

- [磐田市副市長] 個人の意思によるところが大きい「結婚」について、少し前までは、行政の分野ではないという意識があった。磐田市でも進めてはいるが、そこまでやらなければいけないのかという意識を私も持っていた。しかし、本日の講演を聞いて、改めて感じたことは多い。出逢いがあれば結婚したいというニーズは確かにあるので、婚活事業の取組も行うべきであるとお話だが、効果を把握して行う必要がある。その辺りの見通しについて、何かご意見があればいただきたい。
- [上藤教授] 出逢いが生まれることで婚姻に結びつくかを統計学的に考えると、回数を増やしてとにかくやればよいという結論になる。確率は低いが、統計学では繰り返し行うことで数が増えていくという「対数の法則」というものがあり、こまめにやっていく必要がある。お金も必要になるが、繰り返し行うことで一定の数は満たされることになる。効果の点から考えると、経済学の話になるが、短期的な効果と長期的な効果を分けて考える必要がある。例えば、イメージアップなどは単発的に 1 年に 1 回や 2 回やってもあまり意味が無い。断続的にやっていくことでイメージアップにつながり、出生率の上昇につながる。すぐに効果が出てくるかという点、すぐに出てくるものではない。しかし、それをおざなりにすると、長期的に見ると結局、下落要因になってしまう。ここから先は、政治判断になると思うが、長期的な観点からすると、イメージアップも婚活の取組もイベントについても 1 回限りでなく絶え間なくやっていけば、必ず効果は出てくるだろうと考えている。静岡県には、それだけのポテンシャルがあると思う。ない地域でやっても仕方が無いが、データから見ると、静岡県にはそれだけの力がありそうだと私は見ている。県内にもデータ数値のばらつきはあるが、遠州地域はかなりポテンシャルのある地域だと考えている。
- [御前崎市長] どの市町も人口減少や出生率低下の対策を行っていると思う。本市においても奨励金や高校生年齢までの医療費無償化など行っているが、なかなかそれが効果に結びついているかを読み取れていないところである。市町の中で、人口が増えているところもあるが、御前崎市は幹線道路からも外れており、新幹線駅も無いため、移住・定住も対策を行っているが中々難しいのが現状である。出生率向上については、先ほどのご講演の中でフランスの例が出たが、ド・ゴール大統領が人口減少に危機感を抱き、強い国づくりを提唱したことが出生率の向上につながったと聞いている。出生率の向上は、市町だけで取り組むことは難しく、国家戦略として国を挙げて対策を講ずるべきだと考える。し

かしながら、市町としても頑張らなければならないと思っているので、国と市町が協力して効果的に取り組んでいければと考えている。

- ▶ [浜松市長] 御前崎市長のご意見と関連すると思うので、私も伺いたい。特に、結婚観を変えていくことは、特定の地域だけでは難しいのではと感じている。出生率を見ても、沖縄のような特殊な地域を除けば、大体全国的に 1.5 前後でさほど大きな開きはない。国として空気感を変えていかないと、特定の地域だけでイメージを変えていくことは難しいと考えている。
- ▶ [上藤教授] 仰るとおりだ。何かにつけて「若者はお金がないから結婚できない」という論調になるが、それだけではないと考えている。静岡はマーケティングにおいて、全国の縮図のような県なので分析しやすい県ではあるが、全国をサンプリングして調査してみても、おそらく静岡に限った話ではないと思う。内閣府でもそのことに気が付いているし、結婚対策について真剣に取り組む必要性を感じていると思う。しかし、国の行う政策と、地域独特の政策とでは違いが出てくることもある。例えば、転出・転入については、国の視点からすると、国外に出ない限りはどこの県からどこの県に移動しても転出・転入の数は等しくなるため、あまり熱心に取り組んでくれない。ところが、地方の市町からすると、若い人がだんだんと流出していくことは大きな問題である。国と小さな行政単位である市町との間では意識に差があるため、国を説得して、最終的には国全体に影響が出ると訴えていく必要がある。国も熱心に取り組んでいるため、訴えかけていき、首長さんたちの声が内閣府の施策に反映されるようになればいいと思う。
- ▶ [牧之原市長] 県の意識調査では、7 割の人は交際相手がないという結果が出ている。婚活を繰り返し実施すれば効果があるということだが、例えば婚活をしても、調査結果の「拒否されるのが怖い」「忙しくて時間がない」ことが課題の場合、婚活へも行かない、婚活に行っても断られるのが嫌だという意識が未婚者にある。でも、交際はしたい、結婚もしたいという願望がある。そこをどうするかというと、昔は各市町村に結婚相談センターというものがあった。相談者がいて、登録をして、受付の相談員が相性を判断してお見合いをさせるということをしてきた。今から 30 年、40 年前は、世話好きの人がいて、未婚者同士をくっつけることをしていたが、今はそれがセクハラだパワハラだと言われ、世の中全体がそういう傾向になってきている。私はそれが一つの課題だとも思っている。婚活も行けない人がいるとするなら、今はネット社会だから、行政が広域的に登録する場を作り、AI が機械的に相手をピックアップして、お見合いをするということをした方が早いのではないかと考えている。
- ▶ [上藤教授] AI 等を研究している私どもからするとやってくれと言いたいところではあるが、色々問題がある。AI が相手を判断してネットでマッチングをさせるという試みは、これからの社会ではあると思う。現に、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)の調査を行った研究員仲間がいるが、今の若者の場合はネットで出会っているため、統計調査を行ってもどうしても表れない部分があると言っていた。その点からすると、確かに我々も捕捉できない部分があるため、AI を活用してチャンスを作るという考え方も、一度ご検討いただけたら良いと思う。色々なパターンを検証しマッチングする手法が統計学にはある。好きなタイプの人に関するデータを入れると、数学的な解析をして、合致する人が出てくるのだが、その計算は全て AI がしてくれる。ただし、AI を過信してはならない。AI は時に反社会的な行動をするため、注意しなければならない。例えば、昨年 NHK で、AI がデータを分析した結果、40 歳以上の未婚者が多い地域は不

幸になるという指標がたくさん出てくるという内容の番組を放送していた。それを見て私はびっくりした。これはかなり反響が大きく、NHKにも相当苦情が寄せられたと思うが、このような結果が出たときにどう責任をとるのかという問題はやはり出てくると思う。

- [牧之原市長] 市町という小さい単位の中でやっているのと、男性も女性も婚活会場に来る人は皆顔見知りの場合がある。婚活も例えば静岡や浜松などもっと広い範囲で行って、全く知らない人が多いとなると行きやすくなる。しかし、100人や200人もいると、その中から一人を探すのは大変だから、ある程度絞り込みをやってくれればどうかと思う。なぜそう考えるかということ、牧之原市の39歳未満の適齢期における男性の未婚率が52%で、女性は32%である。女性は結婚しているのかもしれないし、都会へ就職して戻らないのかもしれないが、(男性に比べて)パイが少ない。まさに消滅可能性都市になってしまうのかなと考えている。だから、婚活もそれぞれの市町ではなくてもっと広範囲でやるのがいいのかなと思った。
- [上藤教授] 仰るとおりで、婚活は狭い地域で組み合わせるよりも、広い地域でやった方が、生物学的にも遺伝学上でも、広い範囲で色々な人たちと出会うことはいいことなので、有効な取り組みである。ただしお願いしたいのは、1回ではなくて、継続的に断続的にやることで統計学的な意味を持つことになる。単発で終わらせてしまうと、無駄になってしまう可能性があることに留意してほしい。
- [湖西市市長] 本日ご講演いただいた研究の対象者の国籍要件はどうなっているのか。湖西市や浜松市など、この地域は多文化共生が進んでいて、外国籍の方の人口割合も高い。湖西市の場合、人口6万人のうち3千人、5%程で、リーマンショック前程ではないが、日本人の方の人口が減り、外国籍の方の人口が増えている。その方々が同じような傾向や動態を持っているのか。もちろん、技能実習生として来日し、3年や5年のみ住む方もいるが、ブラジル国籍の方など、長期的に住んでいて、この地で育って働く方も相当程度いる。それが、このデータに反映されているかどうかをお伺いしたい。
- [上藤教授] 今回の対象者は、日本国籍を有する者に限っている。公的統計も、全て外国人のデータは除外して、日本国籍を有する者のみデータを使用している。母集団台帳は、選挙人名簿を使用しているため、基本的には日本人のみとなっている。今日の話はあくまでも日本人の話であり、今後、遠州地域で外国人労働者がますます増えていき、家族を作って子どもを産むという点については一切触れていないのでご留意いただきたい。
- [湖西市市長] 外国籍の方の分析もしているのか。今はそこまではしていないか。
- [上藤教授] 外国籍の方の分析はしていない。
- [浜松市長] 上藤先生には大変貴重なデータをお示しいただき、感謝申し上げます。今後の政策に活かしていきたいと考えている。

## 報告事項

### (1) スポーツを契機とした地域振興について

資料2に基づき、事務局から説明。特段の意見なし。

### (2) 移住定住の促進に向けた連携について

資料3に基づき、事務局から説明。

- [牧之原市長] 先ほどの議題でも提案したとおり、広域で婚活をやることは非常にいいことだと思うが、これだけの人口の中で、1回で合計40人というのは、ものすごい確率で、小さいパイだと思う。先ほど先生が言ったように、数を打たないとだめだという話からすると、効果や実績としてもどうか。これだけやるなら、登録をする方がもっと広域的に大きくなる気がする。これだけの圏域人口の中で40人は少ないと思う。
- [事務局] 皆様のご意向を踏まえ、拡大していきたいと考える。
- [掛川市長] 10回ぐらいやればいいのではないか。
- [牧之原市長] 何回かやらないと。1回じゃ効果が出ないだろう。
- [浜松市長] もっと回数をやるべき。回数とボリュームを出すためには、1回にあまりお金をかけない方がいい。
- [御前崎市長] 各市町の女性と男性のバランスはどうか。女性だけ市町からたくさん参加してしまうと、その人が結婚して他市町にとられてしまう。
- [事務局] 男性は均等で、女性は県外の方も含めて募集する。
- [浜松市長] 県外などはどのように募集するのか。
- [事務局] 移住定住センターや浜松の東京事務所など、各方面から情報提供をして募集をかけたいと考えている。
- [御前崎市長] そうすればいい。女性を呼んで来られれば。
- [事務局] 実は三遠南信では天龍村を中心に婚活を行っていて、名古屋や東京に地元の男性を連れて行って、女性を連れてくるスタイルをとっている。婚活だけでなく移住定住の情報発信にもつながるため、そういった事業を三遠南信でもやっていきたい。
- [御前崎市長] それはいい。この遠州地域の中で、男性や女性を取り合っても仕方ない。
- [牧之原市長] 今の地方創生のように奪い合いはよくない。首都圏から連れて来られればなお良い。そういう取組が大切だ。
- [浜松市長] その他にご意見はよろしいか。では、事務局は色々と工夫して進めるように。

## その他

資料4に基づき、事務局から報告。